
早く注文してくれよ

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

早く注文してくれよ

【Nコード】

N4434E

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

焦らなくてもいいけれど、やっぱり早く……。

流行っていない俺の店に似つかわしい年齢層のオッサンがやってきた。

オッサンは、店を軽く見渡したあとで

「新聞ない？」

と聞いてきたので教えると、それをひたくってテーブル席に座ってしまった。

こういうオッサンは、大体新聞に夢中で注文しない。俺は催促せず、のんびり待った。

オッサンが新聞を読み終わるのを待っていると、唐突に俺は呼ばれた。

「なあなあ」

「はい」

「かもつまい可_レ望舞が未成年なのに酒飲んで引退したって？」

「そうらしいですね」

「娘が好きだったんだけど、俺は嫌いだったからざまあみろって思っ
たよ」

「はあ」

うちは酒場じゃないんだ。世間話なら博打仲間とやれ。

という憤りを胸に秘めつつ、俺は厨房へと戻ろうとする。が、お客は帰してくれない。

「ちょっと」

「なんでしょう？」

「ここって、築何年？」

「二十年くらいだったと思います」

「お店は？」

「七年目になります」

「そうか、頑張ってるね。ありがとう」
いや、そうじゃなくて注文を。

と言う前にオッサンがまた新聞に没頭したので、俺は仕方なく厨房に戻った。

一時間くらいは経った。

いくら暇だからって、注文なしで居座られるのは気分悪い。力づくで注文を聞きに行こう。俺は立ち上がった。

「あー、いい？」

自分から行こうとしたのに呼び止められて、腹が立ったが、我慢した。

「はい」

「お冷もらえる？」

「セルフサービスです」

あら本当と、オッサンはへらへらしながら、自分でコップに水を注ぐ。

この期に及んでまだ注文しないのか。

「あと、いつ注文聞きに来るの？」

「……ご注文は」

理不尽な客を相手にしても、店の人間はキレてはいけない。

お客様は神様ですというのは、こういう店にこそ相応しい標語だ。

まあ、これでオッサンから金を貰えば、俺の仕事は終わる。我慢だ。

「スパゲティ一つ」

……え？

「うち、ラーメン屋なんですけど」

「マジ？ 騙されたー！」

「騙されたじゃないですよ！ のれんにもラーメンって書いてあるでしょ？」

俺は、のれんをわざわざ取ってきて、客に見せ付けて訴えた。

悪びれた様子のない客は

「仕方ないな」

と、出口へ向かった。くそ、お冷の出し損だ！

がっかりしつつ、のれんを戻しに扉にいくと、お客は出たところ
で振り返って言った。

「スーパーでスパゲティ買ってくるから、後で厨房貸して」

「二度と来るな！」

（後書き）

1000文字シリーズ三段。そろそろまた手応えがなくなってきたので、また今度は別の鍛錬方法を考えつつ続行しようと思います。ちなみに僕はこういう接客業はやったことはありません。気づけば四十作目。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4434e/>

早く注文してくれよ

2011年1月8日03時05分発行